

第5節 ブルネイ・ダルサラーム (Brunei Darussalam)

堀田泰司

1. ブルネイ・ダルサラーム国と高等教育制度の概要

ブルネイ・ダルサラーム国は、1984年1月1日に英国より完全独立し、主権国家となった。その国家形態は、国王が首相、国防相、蔵相を兼務する「マレー主義・イスラム国教・王政擁護 (MIB)」を主張する立憲君主制国家である (柴田, 2009, p. 45)。石油と天然ガスの輸出に支えられた豊かな国家財政は、国政を安定させると同時に、国家政策として社会福祉を充実させ、公教育においても、学費をすべて無料にしている。また高等教育においても、優秀な学生は様々な奨学金を受け、海外留学もその多くの学生は、全額奨学金を受給しながら留学している。

1985年10月には、国王によって、ブルネイ・ダルサラーム国唯一の大学 (学士課程のある機関) として、王立ブルネイ・ダルサラーム大学 (University of Brunei Darussalam, 以下 UBD) が創設された (Ramly and Metassan, 2006, p. 37)。設立当初は176名の学生を受け入れ、英国のリーズ大学、カーディフ高等専門大学 (University College) の支援によって英語を使った大学教育プログラムを開講し、マレー語による大学教育プログラム (主にマレー語やイスラム研究、イスラム宗教学等) はマレーシア科学大学やマレーシア・ケバングサン大学の支援を受けて開始した。その後1991年には、修士課程プログラムが開始され、1999-2000年には、博士課程も開始し、2003年に博士号第1号を輩出している (Ramly and Metassan, 2006, pp. 38-42)。

また、その他の高等教育機関としては、1986年に設立したブルネイ工科大学 (Institute of Technology Brunei, 以下 ITB) があるが、準学士号 (高等教育ディプロマ、Higher National Diploma, 以下 HND) レベルの教育プログラムしかなく、多くの学生は海外留学をすることにより、特にイギリスで学士号、修士号の学位を取得する形式で、教育を受けてきた¹。2001年からはツイニング・プログラムを開始し、こうした海外と連携した教育を展開してきた。

しかし2007年から2012年の、ブルネイ国家発展計画並びに新たなブルネイ・ダルサラーム国の長期発展計画である「ブルネイ 2035」では、教育分野の発展が8つの事業計画の1つとして重要視された。そして、Pehin Dato Abdul Rahman Taib ブルネイ教育大臣は2008年の演説で、2007年から2012年までの5年間にブルネイ政府が政府開発計画予算の8.7%を教育分野に投入することを約束した。この計画では、特に高等教育分野において、2007年までの大学進学率23%を、2012年までには40%に上げることを計画し、拡大する大学生数を受け入れられる体制を整えるため、2009年には高等教育改革を実施した (Abdul Rahman, 2008, pp. 12-16)。

これに伴い、まず2007年1月には、ブルネイの第2の大学として、UBDからイスラム宗教・文化学院が移転し、イスラム・サルタン・シャリフ・アリ大学 (Universiti Islam Sultan Sharif Ali, 以下 UNISSA) を設立させ、イスラム法やイスラム金融、イスラム社会、文

化、歴史等の教育・研究を行う学士課程、修士課程、そして、博士課程のプログラムを開講した²。続いてブルネイ工科大学 (ITB) は、既存の準学士号 (HND) レベルの教育プログラムを維持しながら、2009年8月にはブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) の工学部の移転に伴い、正規の工科大学として7分野における学士課程、修士課程、そして博士課程を開講した³。

こうして高等教育大改革は、教育省の傘下に王立ブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD)、ブルネイ工科大学 (IBT)、そしてイスラム・サルタン・シャリフ・アリ大学 (UNISSA) の3大学を学士課程以上を持つ高等教育機関として設立させ、2008年度には、総勢約500名の教員スタッフによって、約4500名の大学生を教育する高等教育制度を確立させた。

さらに宗教省でも、イスラム教系宗教学校の教員を養成する教員養成大学として、既存の Seri Begawan Religious Teachers' College を、学士課程もある Seri Begawan Religious Teachers' College University (以下 Kupu SB) に昇格させた。

しかし、それらの大学は2009年8月から開始された教育プログラムであるため、現在もまだ、学内の規則や教育プログラムのカリキュラムの内容等は開発中の部分が多い⁴。2007年までの高等教育における単位制度、成績評価制度、単位互換制度等に関しては、唯一の大学であった王立ブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) の理事会に政府関係者が出席していたため、それが政府の承認を得た規定とされていた⁵。以上のような状況のため、以下、王立ブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) の規定や活動を、ブルネイ・ダルサラーム国の中心的な制度並びに実施状況として紹介する。

2. 大学の事例紹介

(1) ブルネイ・ダルサラーム大学 (Universiti Brunei Darussalam) の概要

- 1) 設立年度：1985年
- 2) 学部数：4学部 (人文学部、経営・経済・政策学部、理学部、保健科学部)、ブルネイ研究学院、語学センター、教員養成学院の合計7つの教育・研究組織があり、学士課程だけでなく大学院教育も行っている (UBD, 2009f)。
- 3) 教育課程数：上記7つの部局で、学士課程、修士課程、博士課程を提供している。そして、教員養成学院は2009年から、上記4学部を卒業した学部学生に1年間の教員養成コースを開講している。また、準学士レベルの教員や医療従事者の養成を行っている。
- 4) 学生数：学部生：2,838人、大学院生：285人、その他 (準学士など)：697人 [2009年12月現在]
- 5) 留学生数：190人 [2009年12月現在]
- 6) 教員数：375人 [2009年12月現在]
- 7) 授業・学期の期間：学期は2学期制で、第1学期は8月-12月 (18週)、第2学期は、1月-5月 (18週) である。また1学期は、以下の通り18週で構成されている UBD (2010b)。

[1 学期（18 週）のスケジュール]

- 7 週間の講義期間
- 1 週間の休暇
- 7 週間の講義
- 1 週間の試験準備期間
- 2 週間の試験期間

8) 新規学士課程プログラム：

学士課程の教育プログラムでは、2009 年 8 月より「Next Generation Programme」という新たなプログラムが開始された。以下はその教育プログラムの概要である。新たな Generation Next（以下 GenNEXT）は、人文学、保健科学、理学、そして経営学の 4 分野で学士号が取得できる教育プログラムである（UBD, 2010a）。そして各分野に複数の専攻があるが、カリキュラム全体に柔軟性を持たせ、時代のニーズに合わせた異なる分野の専門知識を、学生が学部や専攻分野を超えて学際的且つ横断的に学ぶことができるカリキュラムを提供している。そのため、この GenNEXT プログラムでは、3 つのタイプの授業科目を提供している。それらは、(1) GenNEXT プログラムに在籍する学生全員が履修しなければならない全学共通の必須科目（Malay Islamic Monarchy（以下 MIM）科目や、大学での研究・学習スキルの向上を目的とするコミュニケーション科目等）、(2) 専攻分野の専門科目、そして (3) 学際的な他分野選択科目（以下 Breadth courses）である⁶。カリキュラム全体の約 50–60%は全学共通必須科目と専門科目で占められ、残りの 40–50%は Breadth courses の履修が可能である。また、Breadth courses 内にも、(1) 他学部の選択科目、(2) 所属学部内の選択科目、そして (3) 1 つの科目にいろいろな分野からの視点が盛り込まれている学際的な選択科目、の 3 つのタイプの科目がある。さらに 3 年次を Discovery Year（発見の年）と称し、学生が自ら国内外でのインターンシップや海外留学等を選び、様々な視点からの人間形成を培うのが狙いである。この 3 年次の履修科目には、以下の 5 つのパターンが設定されている。

- (1) 短期留学プログラム（Study Abroad Program、以下 SAP）への 1 学期の参加と UBD での 4 つの Breadth courses 履修
- (2) 1 学期のインターンシップ並びに UBD での 4 つの Breadth courses 履修
- (3) 1 学期の地域社会貢献活動と UBD での 4 つの Breadth courses 履修
- (4) SAP への 1 年間の参加
- (5) SAP への 1 学期の参加と 1 学期のインターンシップ

上記すべてのコースは、8 科目（32 単位）相当として換算される。

*また、SAP へ参加する代わりに、交換留学プログラム（Student Exchange Program, 以下 SEP）に参加することもできる。

表1 4年間全体のカリキュラムと単位数の事例（経営学専攻の学士課程）

1, 2, 4 学年の履修科目	科目数
全学共通必須科目 (Degree core courses)	5 科目
専門 (必須・選択) 科目 (Major core/elective courses)	13 科目
(学際的) 選択科目 (Breadth courses)	6 科目
3 年次 Discovery Year	
SAP (SEP でも可)、インターンシップ、地域社会貢献活動、 Breadth courses のいずれかの組み合わせ	8 科目相当
合計	32 科目

また、2009年8月に始まった GenNEXT プログラムの第1学期（9月－12月）に開講された科目のリストは、添付資料の通りである（UBD, 2009a）。4単位の科目が多いのがよく分かる。しかし、上記の例のように32科目履修したからと言って、32科目×4単位＝128単位とはならないようである。専攻によって、2単位の科目との組み合わせがあり、多くの専攻は、124単位を卒業に必要な単位数として設定している⁷。

9) 授業での使用言語の変化：2009年以前の UBD での授業は、多くの部局では、英語で授業を行っていたが、同時に MIM 政策に関係するマレー文化・言語、イスラム文化・言語、そしてイスラム教関係の科目は、マレー語やアラビア語で授業が行われていた。しかし、2007年にイスラム宗教・文化学院がイスラム教系大学（UNISSA）へ移転し、マレー語やアラビア語で教えられていた教育プログラム自体が UBD の外へ出たため、2009年8月に始まった GenNEXT プログラムでは、95%以上の科目が英語で教えられるようになった⁸。

10) 大学院教育の拡大計画：博士課程の学生は、2001－2002年に2名程度在籍していたが、次第に学生数も増え、現在10名弱が博士号論文を執筆中である。そして、2007年からの高等教育改革に伴い、博士課程の学生数の拡充計画が開始され、2009年度から UBD では、300人分の博士課程進学に向けた奨学金を提供し始めた。しかし奨学金は、優秀な学生にだけ支給されるため、2009年度は800人の申請に対し、わずか数名しか最終審査に残っておらず、UBD 関係者からはその拡充の難しさが指摘されている⁹。

11) 大学の質保証に関わる運営形態と外部評価活動：高等教育は近年まで、UBD が唯一の大学であったため、政府関係者が理事会に参加することによって規定等を決定し、それが国全体の規定となっていた。しかし現在は、教育省管轄下の大学数も3大学になり、それぞれの大学が独自に運営している。ただしいずれも国立の大学のため、政府は理事会等への参加により大学運営に参加している。また UBD では、独自に定期的な外部評価も実施しており、毎年、海外の学部評価委員から、成績証明書や試験等の審査を受けている。そして3年に一度は、外部評価委員が大学を訪問し、各専攻プログラム、学科、学部ごとの審査を行っている。単位制度や成績の制度に関する監査も、そうした外部評価活動の一部として取り扱われているようである¹⁰。

(2) UBD の単位制度に関する規定の概要

1) 学士課程の単位制度

学士課程は、通常 4 年間（8 学期）で 124 単位の履修が必要である。1 科目（モジュール）は 2 単位か 4 単位が多いが、3 単位や 1 単位の科目も存在する。しかし 2009 年からの GenNEXT プログラムでは、4 単位の科目が圧倒的に多い¹¹。1 科目（モジュール）は 4 単位の場合、その多くは週に 4 時間の授業を受けるケースが多いが、2 時間や 3 時間、また中には 10 時間の授業を受ける科目も存在する。分野によって、そうした授業形態は異なるため、単位数が自動的に授業時間数と連動しているとは言えない。また通常の授業時間数は、講義 2 時間に対し、1 時間程度のチュートリアル（小クラス）の授業があり、チュートリアルの実施は、学期初めの履修状況と教員の日程によって、どのようなアレンジをするか決められる。したがって、通常、教員の担当講義時間数は週に 8 時間から 14 時間であるが、学生が予想外に多く集まった結果、やむなくチュートリアルのクラスを増やすこともあり、学期によっては週 30 時間の講義を強いられるケースもある¹²。以上のことから、UBD では、授業科目名並びに単位数、学習時間数等の情報は十分に提供されているが、単位数が一定の授業時間数や学習時間数を表すという形式にはなっていないことが分かる。その設定は学科や教員によって非常に異なり、教員の自治権が強いことが伺える。

学習時間数を推測する 1 つの手段としては、インターンシップのような科目の就労時間数を見るのが有効である。日本では、1 単位は 45 時間相当の実習・研修を表しているが、UBD では、通常、最低 64 時間の就労時間数が 1 学期分のインターンシップ科目の単位取得要件になっている。それは明確に単位化されていないものの、実際には 16 単位相当であるため、就労時間数も 1 単位の学習時間数を保証しているものではないと言える¹³。

2) 修士課程の単位制度

修士課程は、在籍期間 1 年以上 2 年未満であり、修士号論文の審査により修士号が取得できる教育課程と、科目履修だけで学位が取得できる教育課程の 2 つのタイプがある。修士号論文のみの教育課程では、指導教員が指定した各専攻学科の特定の科目を履修し、修士号論文を作成しなければならない。この場合、履修科目はあくまでもコースワークの一環として単位を取得する必要があるが、その取得した単位数自体が卒業要件に影響するような形式ではないため、専攻によって必須科目数は異なる。修士号論文は、基本的に 6 万語以内に収め、口頭試問形式の論文審査と合格判定を受けて修士号を取得することができる。審査委員会は、(1) 総長、または総長が推薦した教員、(2) 学部長、(3) 専攻学科長、または専攻学科長が推薦した教員、(4) 学内試験官、(5) 外部試験官（ただし審査会に出席出来る場合）、そして (6) 指導教員の 6 名、で構成される。(UBD, 2009c)

一方、科目履修だけで卒業できる修士課程は、各専攻の指定した科目を履修する必要がある。通常、40 単位（10 科目以上）相当の履修が必要である。1 科目の多くは 4 単位で、週に 8-10 時間の学習時間数を要する。また科目ごとに試験があり、それぞれの試験委員会は、(1) 学部長、(2) 副学部長 (3) 専攻学科長、(4) 学内試験官、の 4 名で構成される。さらに修士課程を卒業するためには、それぞれの専攻が特定した「研究指導」教育を受けなければならない。この「研究指導」は、実際の政策評価分析の体験や短い卒業論文

の作成、研究プロジェクトの実施等を通して行われ、最終的になんらかの報告書を提出する必要がある。また、研究指導に関わる取得単位数が 16 単位を超える場合は、最終試験委員として、上記 4 名に加え、さらにもう 1 名の外部試験委員を加えなければならない。卒業にあたり、履修した科目の成績は、2.5 点以上の GPA がなければならない (UBD, 2009d)。

3) 博士課程の単位制度

博士課程は、基本的に科目履修の要件はなく、博士号論文の口述試験の合否だけが学位取得を決定する要件である。通常、学位取得までに 3 年から 7 年間の期間が想定されている。

4) シラバス

UBD での 1 科目のシラバスのサンプルでは、以下の情報が提供されている。

- (1) 科目番号
- (2) 科目名
- (3) 科目のタイプ (必須科目、選択科目 (Compulsory Breadth))
- (4) 単位数 (講義の時間数並びに自習の時間数も明記されている)
- (5) 受講条件
- (6) 目的
- (7) 授業内容
- (8) 成績評価の配分 (試験や発表、授業態度、宿題等ごとの成績の割合)
- (9) 教材
- (10) 週ごとの授業内容

単位数に関しては、授業時間数並びに自習時間数も明記されているが、単位数と時間数は連動していない。また、達成目標 (Learning Outcomes) については、それを学期末の成績評価の指標に使用するような段階には来ていない。

(3) UBD の成績評価制度に関する規定並びに質を保証する活動の概要

1985 年から 2009 年までは、以下の成績評価表が UBD で使用されてきた成績評価基準であった。

表 2 UBD の成績評価基準 (2009 年までの旧教育プログラム)

成績	点数の割合	評価
A	80-100%	最優秀 (First Class Honours)
B	70-79%	優秀 (2 等級) の上 (Second Class (Upper) Honours)
C	60-69%	優秀 (2 等級) の下 (Second Class (Lower) Honours)
D	50-59%	優秀 (3 等級) (Third Class Honours)
E	40-49%	合格 (Pass Degree)
F	39%以下	不合格 (Fail)

出典 : UNESCO (2003)

しかし、2009年8月より、GenNextプログラムの導入によって成績評価システムも大きく変更された。以下の新たな成績評価表は、まず評価基準が細分化され、また、不合格の点数も40%以下から50%以下へ引き上げられ、GPAも導入された¹⁴。

表3 成績評価の基準(仮)

モジュール評定	GPA ポイント
A ⁺	5.0
A	4.5
B ⁺	4.0
B	3.5
C ⁺	3.0
C	2.5
D ⁺	2.0
D	1.5
P	1.0
F	0

出典：UBD (2009e)

また、評価方法としては、学生の成績の配分方法に相対的評価基準を若干使用しているようであるが、まだ多くの教員は、絶対的評価方法によって成績評価しているようである¹⁵。成績評価は、宿題や発表、試験等の成績を合わせ、100%で成績が計算され、その割合から上記のような成績が算出されている。そして、教員が最終的な成績を大学当局に提出する方法は、オンラインでも登録できるが、まだ多くの教員は書類に記入したものを大学事務局に提出し、入力してもらっているようである。提出された成績は、教育プログラムごとの主任教授が確認し、学科長が最終的な成績の管理を行っている。ある教員が極端な成績をつけていた場合は、何らかの忠告等があるが、一般的には制約はあまりないのが実態のようである。

(4) UBDの学生交流活動とその単位並びに成績評価の互換制度

UBDの単位互換システム(Credit Transfer System、以下CTS)は、1986年のスタディー・アブロードプログラム(SAP)開始後から使用されたシステムである(UBD, 2009b)。開始当初、SAPは学士課程の学生が3年次の1年間、主に英国へ留学するプログラムであったが、近年はプログラムが拡大し、毎年60名前後の学生が英国、オーストラリア、ヨルダン、マレーシアへ留学している。それは、UBDで開講することのできない授業科目を指導教員が予め指定し、それを履修し単位を持ち帰り、さらに4年次にUBDに在籍し、必要な科目を取得することによって卒業するという、UBDのカリキュラムに予め組み込まれた短期海外留学プログラムである。また医学部などでは、ただ単なるスタディー・アブロードプログラムではなく、UBDで3年間科目履修し、その後、英国の大学へ留学し3

年間の教育を受け、英国の医師免許を取得して帰国するようなツイニング・プログラムも存在する。こうした形態のプログラムを大学の創設当初から運営してきた経緯もあり、**UBD** は、単位互換に関しては、十分な経験と積極的に受け入れる姿勢を持った高等教育機関と言える。しかし、**SAP** での単位互換は、**UBD** への科目の読み替えではないものの、既存のカリキュラムの一部として予め選定された科目を履修するため、単位互換に関する問題はこれまで大きな問題にはならなかった¹⁶。

これに比べ、**UBD** の学生交流プログラム (**SEP**) は、2000 年前後から学生の受入れを始めたが、プログラムとして公式に学生を派遣したのは 2005 年が初めてであり、単位互換の経験は浅い¹⁷。現在、毎年 15 名程度を受け入れ、20 名前後を派遣している **SEP** は、**UBD** に 1 年在籍し、学業成績が **B**、または **C+** 平均であれば、2 年次から交換留学生として 1 学期または 1 年留学できる制度であり、現在は、欧米諸国、中東諸国、**AUN** (**ASEAN University Network**) のメンバー大学、並びに日本、韓国、中国等の高等教育機関と協定を持っている。

多くの学生は、海外へ留学する場合、何らかの奨学金を受けるケースが多い。学業成績の平均値が **B** か **C+** 以上あれば奨学金受給資格を有するため、スタディー・アブロードでも交換留学でも、奨学金を受給して留学する学生は多い。また交換留学の場合は、さらに海外の協定大学からの支援もあるため、財政的支援を受ける機会が多い。

SEP は、今後拡大していく計画であるが、これまでの各研究科が事前に協定大学における教育プログラムの内容を熟知した上で派遣、単位互換をしていた **SAP** とは状況が異なるため、国際部は、それらの新たな学生交流事業に対し、可能な限り地域間で活用されている既存の **ECTS** (**European Credit Transfer System**) や **ACTS** (**ASEAN Credit Transfer System**)、そして **UCTS** (**UMAP Credit Transfer System**) 等を積極的に活用し、より多くの国との単位互換を可能にしようとしている (**UBD**, 2009b)。

UBD における単位と成績の互換制度は、以下の原則に基づいて実施されている。

- (1) 協定大学で得た成績評価は、**UBD** でも同等の値で成績評価の互換を受けることができる。
- (2) ただし、異なる成績評価システムからの互換の場合は、不合格以外の成績をより高く評価したり低く評価したりする可能性がある。
- (3) 成績評価の調整は、各学部の試験監査委員会 (**Examination Board**) によって判断される。
- (4) **UBD-CTS** は、大学の試験評価規定第 22 条に概説されている。
- (5) 以下の表は、協定大学や国によって調整された換算表の例である。

表 4 UBD-CTS に基づく海外からの成績互換の例

成績	点数の割合	評価	英国評価	点数の割合	ヨルダンの評価	点数の割合
A	80-100%	1 級	A	70-100%	A	85-100%
B	70-79%	2 級の上	A- / B+	60-69%	B	75-84%
C	60-69%	2 級の下	B	50-59%	C	65-74%
D	50-59%	3 級	C+ / C	40-49%	D	55-64%
E	40-49%	合格	F	39%以下	E	45-54%
F	39%以下	不合格			F	40%以下

出典：UBD (2009b)

- (6) 英国とシンガポールの成績は 10%高く評価される。よって、上記の表の通り、70%であっても、UBD では 80%以上の評価となる。
- (7) オーストラリアとマレーシアでの評価は、UBD での成績評価システムと類似しているため、調整されることなくそのままの成績が互換される。
- (8) ヨルダンやその他の中東諸国、並びに似たような成績評価システムを活用する大学の成績評価は、5%下げて UBD の成績に換算する。
- (9) 韓国や日本からの成績は、取得した成績全体の平均値から UBD で使用する GPA を換算し、成績の互換を認めることとする。

3. 結語

ブルネイ・ダルサラーム国の高等教育制度は、王立ブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) が唯一の大学であったという点で、他国の発展状況とは異なる。国立の大学であるため政府と直結した運営であったが、実際には、イギリスやその他海外の大学とも強い連携体制を維持しながら、大学として独自に様々な制度を確立し、また部局ごとの自治権も認めていた。したがって、カリキュラム、単位制度、成績評価の運用の仕方も様々な形態のものが存在し、大きな枠は 1 つであっても、詳細な部分では異なるシステムが共存するという大学体系となっている。また、2007 年より進められてきた高等教育改革は、近年の大学制度自体にも大きく影響し始めていると考える。UBD の GenNEXT プログラムは、非常に斬新的なプログラムである。単位制度や成績の制度に関してより明確化され、全学で統一されたことによって、海外の大学への透明性が高まり、国際連携がよりしやすくなっている点などから、今後の発展を期待したい。

参考文献

- 芝田征二 (2009) 「国立ブルネイ・ダルサラーム大学(UBD)における英語を媒介とする教育の現状と歴史的背景」『立命館国際研究』 21-3, 45-64 頁。
- Pehin Dato Abdul Rahman Taib [以下、Abdul Rahman] (2008) [教育大臣] “Human Resource Development for the Challenges of the 21st Century: The Role of

- Education in Brunei Darussalam” presented at “Brunei Forum 2008” (The Institute of South East Asian Studies (ISEAS), Singapore), p. 21.
- Cheong, D. P.P. (2003) “Brunei Darussalam” pp. 29-43, in UNESCO (2003) Handbook on Diplomas, Degrees and Other Certificates in Higher Educaiton in Asia and the Pacific (2nd edition), (Bangkok; UNESCO Asia and Pacific Regional Bureau for Education), p. 360.
- Ramly, R, Hitam, S and Metassan, Dk A. Pg (2006) 20 years of UBD: A Photographic Journey Universiti Brunei Darussalam, p. 118.
- UBD (2009a) “Catalogue of GenNEXT Degree (Undergraduate) Modules offered at Universiti Brunei Darussalam”, p. 4. [2010年3月1日現地調査収集資料]
- UBD (2009b) “Credit Transfer System in Universiti Brunei Darussalam”, p. 5. [2010年3月1日現地調査収集資料]
- UBD (2009c) “UBD Exam Regulations for the Degrees of Master: (Revised and Amended on December 15, 2009”, p. 5. [2010年3月1日現地調査収集資料]
- UBD (2009d) “UBD Regulations for the Degrees of Masters” (Section 29, Constitution of University Brunei Darussalam), p. 11. [2010年3月1日現地調査収集資料]
- UBD(2009e) “Universiti Brunei Darussalam Examination Regulations and Generation Next Undergraduate Programmes”, pp. 5-8. [2010年3月1日現地調査収集資料]
- UBD (2009f) “Welcome at Universiti Brunei Darussalam” (パワーポイント発表資料) [2010年3月1日現地調査収集資料]
- UBD (2010a) “New Generation Programmes at Universiti Brunei Darussalam”, p. 5. [2010年3月1日現地調査収集資料]
- UBD(2010b) “Calendar” (<http://www.ubd.edu.bn/calendar.html>) [アクセス日：2010年3月14日]

-
- 1 ITB ホームページ (<http://www.itb.edu.bn/>) [アクセス日：2010年3月14日]
- 2 UNISSA ホームページ (<http://www.unissa.edu.bn>) [アクセス日：2010年3月23日]
- 3 2010年3月1日、王立ブルネイ・ダルサラーム大学での聞き取り調査より。
- 4 Ibid.
- 5 Ibid.
- 6 Ibid.
- 7 Ibid.
- 8 Ibid.
- 9 Ibid.
- 10 Ibid.
- 11 UBD ホームページ (<http://www.gennextdegrees.ubd.edu.bn/index.html>) [アクセス日：2010年3月23日]
- 12 2010年3月1日、王立ブルネイ・ダルサラーム大学での聞き取り調査より。
- 13 Ibid.
- 14 Ibid
- 15 Ibid.
- 16 Ibid.
- 17 Ibid